

横浜市立永田台小学校

学校教育目標「一人一人が輝く永田台」

知：学び続ける 徳：ともに豊かに 体：心も体も元気に 公：持続可能な未来を 開：地域と夢

1 学校教育目標と

ESDを通して育成したい資質・能力とのつながり

学校教育目標「一人一人が輝く永田台」に向けて、「豊かで確かな学び」を実現する。とくに3つの視点を大事にしている。「体験」では、試行錯誤を繰り返しながら学ぶことができるようにすること。「言葉」では、自分の思いを表現する言葉を持ち、語り合う豊かな学びをめざすこと。「協働」では、つながり合い、認め合い、協力しあって活動することのよさを実感できるようにすることである。



○よもぱん買い物プロジェクト（個別支援級）

地域のパン屋でお買い物をする活動を通して、生きる力とともに地域への愛着が高まった。

2 SDGs達成の担い手育成（ESD）の視点で 取り組んだこと

自らの問いを大切にし、解決に向けて探究的に学習を深める「生活・総合的な学習の時間（かがやきの時間）」での取組を紹介する。

★全学年のかがやきの時間の活動が11番「住み続けるまちづくり」につながっています。

○幼小小交流つながりプロジェクト（1年）

球根を同じ時期に植えるために、永田台小から幼稚園・保育園に届けた。互いに思いをもって花を育て、緑を大切にする心を育みます。



○玉ねぎの皮を使って草木染め（3年）

廃棄される給食の玉ねぎの皮を使ってオリジナルハンカチの草木染めをした。廃棄するものにも価値のあるものがあることに気付いた。



○笑顔を取り戻そう！コロナに負けるな！永田台マラソン（6年）

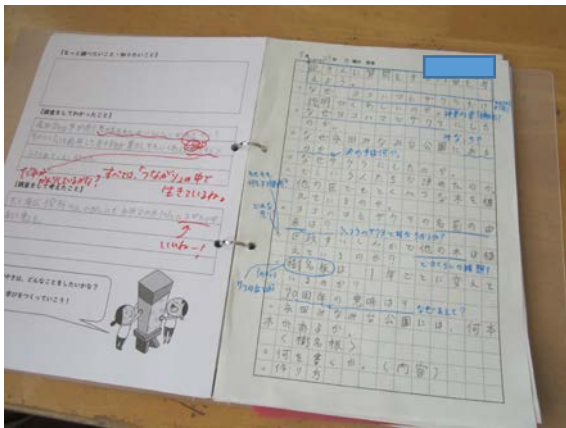
コロナ禍で地域に笑顔と元気を取り戻そうとマラソン大会（運動）を企画した。多くの参加者が笑顔になりました。3番の「健康と福祉」につながった。



3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

○一人ひとりの子どもの気づきや変容をとらえるポートフォリオ評価

全学年にA4 2穴ファイルを配付した。そこにかがやきの時間の活動での学びや気づきを毎時間書き込んでファイルに綴じている。子どもたちのふりかえりには、担任がフィードバックをする。そのフィードバックも気づきを促す問いかけを大事にしたフィードバックを心がけることで、子どもたちのESDがより深まっていき、次の問いを生み出すきっかけになっている。



↑自分で気づきや問いを書き込み始める児童



↑全学年に配付しているファイル

○全学年の活動を可視化することができる掲示の工夫「かがやきストリート」の作成

本校には、全学年が通る廊下がある。その廊下の柱を活用し、かがやきの時間の活動の足跡を残している。この取組により、どの学年でどのような活動をしているのか見ることができる。また、ホールスクールアプローチとして、担任や学年の先生だけではなく学校全職員が

「こんな団体とつながって見たら?」「このアイディアどう?」など日常から声をかけ合い、職員間での対話のきっかけを生むことができる。その対話は教職員間だけではなく、児童と職員の話のきっかけにもなるので、ホールスクールアプローチにより学びがより深まっている。



↑学年ごとの柱になっている

○子どもの変容を見取る教職員の育成

子どもの変容を見取る上で、教員一人ひとりの「見取る力」は欠かせない。その力を向上させるために、授業研究会では数名の子どもの45分間の授業の行動観察をし、その子どもの姿を糸口に授業内容や問いを深める研究協議会を行っている。研究協議会を重ねることで、教員の見取る力は確実に上がり、日々の授業にも生かされている。

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

- 予測不能な時代の中でも、ESDに取り組むことで、一人では解決できないことも、誰かに相談をすれば解決することができることや、困っているときは地域や教員などの身近な大人が協力をしてくれることを、実体験を伴って、実感することで、「自分の小さな力は大きな力になる」という認識をより確かにすることができた。
- ふりかえりを大事にすることで、自分の中の問いを見つめ直すきっかけとなり、思いを言語化することで学びがより豊かになった。また、ESDにおける資質能力（批判的思考・未来の計画性・多面的総合的に考える力）の高まりにつながり、ESDをより深化させている。